

議会報告会実施報告書

開催日時	令和6年3月28日（木）午後1時～午後2時45分	
開催場所	明石市役所議会棟2階 大会議室	
テーマ	明石市の入札に関わる現状及び課題について	
出席議員	委員長	石井宏法
	司会者	井藤圭順
	記録者	中川夏望
	その他	竹内きよ子、正木克幸、辰巳浩司、梅田宏希、辻本達也 (以上、総務常任委員)
参加人数	兵庫県建設業協会 明石支部 3名 兵庫県電気工事工業組合 明石支部 2名 明石市管工事業協同組合 3名 兵庫県建築士事務所協会 3名 兵庫県建築士会 1名	
報告内容	<p>○入札に関わる現状及び課題について（辻本達也委員）</p> <p>【入札制度の課題における前提】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題は、行政、施行業者、市民と、立ち位置によって見え方が変わる。 ・行政は、適正価格での契約、公正公平な入札、お金の使い方が課題。 ・業者は、適正な価格で受注しながらも、持続可能な企業経営の責任を担う。 ・市民は、透明性、競争性、効率性、客観性の確保を行政に負託している。 ・発注者である行政と受注者である施工業者は緊張関係にある。 <p>【入札制度「改革」によってもたらされたもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競争性の確保により、談合・不正の防止につながった。 ・落札率（予定価格に対する落札金額の割合）の低下に伴い、歳出予算の削減が実現。 ・一方、受注競争の激化に伴い、赤字覚悟の応札やくじ引き落札が増加。ダンピング受注が増加。 ・その結果、下請・技能労働者への負担が増加し、事業者の経営が悪化。担い手不足・インフラの維持管理にまで支障が生じている。 ・改革優先か、業者保護か。今後の対応が求められている。 <p>【入札制度の課題と行政の責任】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物価高騰への対応、社会情勢に対応できる入札制度への見直し、最低制限価格の適用範囲の拡大、インセンティブがより働く制度に、「働き方改革」への対応等、多くの課題が残されている。 ・これらの課題に対し、行政は、不正防止とダンピング対策の両立のための「適正な契約の推進」、技術・技能の継承や担い手の確保のための「労働者の処遇改善」、インフラの整備・管理や大規模災害への対応のための「品質・安全の確保」を進めていく必要がある。 ・今後、行政には、透明性・公正性・競争性を確保することで市民の信頼を得ながらも業者や業界の持続可能性を考えていくことが求められる。 	

○参加者からの現状説明

【兵庫県建設業協会 明石支部】

- ・市内業者は70社から17社と激減しており、災害などの万が一の場合、お得意先を放置して行政の仕事はできない。
- ・インフラの劣化が進んでおり、地元業者が減少する中、古くなったインフラの維持が課題。
- ・20年、30年後の後継者が不足している。
- ・適正価格と業界育成のバランスが重要。利益の抑制ばかりではしっぺ返しが来る。
- ・本市においては、単価の公表がなく、適正価格の積算が困難。
- ・本市の入札に参加するメリットがあまり感じられない。

【兵庫県電気工事工業組合 明石支部】

- ・入札数が少なくプロポーザル方式の入札が多いため、市外業者、大手が有利。
- ・市内業者の育成が不十分である。
- ・市内事業者が160社あったのが80社未満に激減している。
- ・プロポーザルの規模が大きくて、市内業者では下請けでしか携われない。
- ・他市の事例を参考に緊急の対応ができる組織をつくり、有事の際に近隣業者の協力を得られる体制を構築する必要がある。

【明石市管工事業協同組合】

- ・災害が来るまでに備えることが一番大事であり、災害に強いまちを創っていかねばならないと認識してほしい。
- ・競争させ適正価格をいかに下げられるかではなく、100%が適正である。
- ・市外業者に落札されれば法人税は明石市に入らない。
- ・入札価格の切り方が国、県、市それぞれで違い、透明性がない。
- ・本市の入札価格はオープンになっておらず、独特の値段設定をしているから読めない。
- ・業者は経営のため低い値段で契約を取りに行くが、競争の激化の末、市内業者がいなくなってきたり、なり手もいなくなってきたり。
- ・市内に業者がいなくなると災害時に対応できない。業界の育成のためにも、適正な価格で、ある程度の入札の量を出していただきたい。

【兵庫県建築士事務所協会】

- ・委託設計書の協議録の提出方法について郵送・メールは認めない等、業者を締め付けるルールがあるため、お互いに効率的な仕事ができるよう見直してほしい。
- ・CADの提出方法について、本市独特のルールがあり、他の自治体の倍の時間がかかっている。簡素化できれば価格を下げることもできるのではないかな。
- ・予算について、いくらで切られているのかブラックボックスで見えない。
- ・最近は見積もりと実勢との差が縮まってきており、担当者はどこまで把握しているのか疑問。
- ・刊行物への金額の反映が遅いので、入札したときに金額が合わないという事態が生じている。

【兵庫県建築士会】

- ・過度な要求に応えようとする業者がつぶれてしまい、潰れた業者は戻らない。
- ・行政担当者と業者でディスカッションする場が必要ではないかな。
- ・先を見据えて種をまき、次の世代にとって魅力のある業界を維持する必要がある。
- ・役所内も建築士が少ない。役所も業者も育てる必要があるのではないかな。

<p>報告内容に関する質疑応答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正木委員：年間の公共工事の見通しがあれば雇用の維持に良い影響があるのか。 ・兵庫県建設業協会：金額面で民間より公共の方が大きいと、大いに影響がある。本市に比べ近隣の神戸市は公共工事が潤沢なため、拠点を移す業者も出てきている。 ・正木委員：入札を小さく小分けにすれば市内業者は対応できるのか。 ・兵庫県電気工事工業組合：人手に関して、金額が大きいと対応が難しくなる。分割すれば市内業者も手を挙げられる。大きすぎると参加する前に断念している。 ・正木委員：市外の業者が落札した場合、運搬等の経費がかかり、工事費に反映されているのではないか。その分質が悪くなっているということはないのか。 ・明石市管工事業協同組合：距離が遠いと残業等、職員に負担がかかる。近いところ仕事をする方が望ましい。また、市内業者が受注すれば法人税が市内に落ちる。 ・正木委員：表面落札価格は高くても維持管理費が安ければ、ライフサイクルコストでみるとかかるお金が逆転する場合もありうると思うがその点はどうか。 ・兵庫県建築士会：表面落札額が高かったらパーフェクトなのかと言われるとそうではない。企業の日々の研鑽が問われる。予算次第であると感じる。 ・兵庫県建築士事務所協会：新しく良いものを提案しても、施行実績がないから断られることもある。結果として過去に使ったものを使うことになる。 ・兵庫県建設業協会：契約して1か月も経たないうちに変更契約がある場合があり、変更ありきなのかなと疑いたくなる。基本的に追加がでたら損をするし、図面訂正作業で残業しなければならなくなる。 ・梅田委員：書類作成業務の負担が増大したのは姉歯事件の影響か。 ・兵庫県建築士事務所協会：姉歯事件の影響もあるが、担当者が若くなりすぎて、上に報告するための書類作成に時間を要している場合も多い。 ・兵庫県建築士事務所協会：本来の仕事ではない、実際の仕事以外の書類、写真など、直接関係ない資料を作成する時間がかかっている。電子データで送ってもいいなど、効率的な運用方法を検討してほしい。 新しいものを使う時は書類が膨大になる。だったら過去のものを使おうとなる。 ・兵庫県建設業協会：昔はベテランでなくても現場で質問したらすぐ答えが返ってきたが、今は持ち帰ってなかなか返ってこないことで、作業も停滞する。 ・梅田委員：本市と他市での仕事を比較して、行政手続面での違いはあるか。 ・兵庫県建設業協会：神戸市は簡素化している。提出書類もはるかに少ない。システムに則ったCADを使用していないため、コンサルから上がってくるデータが統一されていない。 ・兵庫県建設業協会：明石市ではもう開発工事は受けないと言っている業者もある。難しすぎる面があるのではないか。書類が止まってしまっているという話も聞いた。 ・兵庫県建築士事務所協会：民間は電子申請が主流となっている。行政も勉強していただければできるようになるのではないか。
---------------------	---

明石市議会議長 尾倉あき子 様

令和6年4月17日

上記のとおり報告します。

総務常任委員長 石井 宏 法